

# せんそう じだい 戦争のあった時代

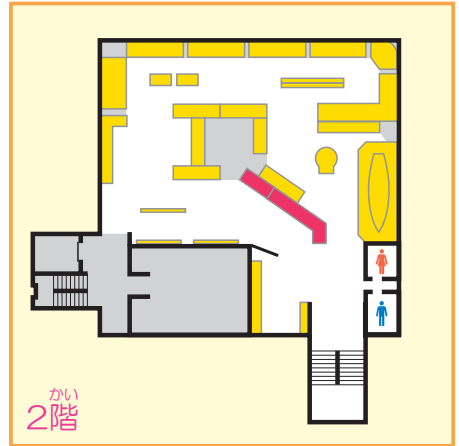
(コーナーの名まえ)

この場所で見られます

● 昭和の暮らし

戦前の平塚には、大砲の火薬をつくる海軍火薬 廠  
など、軍隊を支える工場がいくつもありました。  
昭和16年(1941年)にアメリカとの戦争をはじめ  
ると、都会の子どもが地方に疎開したり、中学生が  
工場で働くなど、子どもたちのくらしも変わって  
きました。

昭和20年(1945年)7月16日の夜、平塚は132  
機のB29爆撃機による空襲をうけ、44万本以上  
の焼い弾が町におとされ、300人  
以上の人がなくなりました。



おとなたちは  
どんどん戦いに  
かりだされて、  
中学生まで  
火薬工場で働いたんだ。



だんだん  
物が不足して  
生活も  
不自由に  
なったのね



火薬廠門柱札

せんそう  
この戦争で、  
おおぜいの人がなくなり、  
いえ  
家や、だいじなものを  
うしなったんだ。  
くる  
苦しくて、  
かな  
悲しい思いをしたのに  
まだ世界のどこかで  
せんそう  
戦争はおきている。  
なぜなんだろう。



E46集束弾とM69焼夷弾  
しょう だん  
焼夷弾



ひらつか  
平塚でくらすわたしたちは  
かな  
悲しい思いをした人たちの  
ためにも  
へいわ  
平和のたいせつさを  
つた  
伝えていかなければ  
ならないのね

## ミッション 16

ひらつか しがいち しょう だん みつど てんじつ あか しめ  
平塚の市街地におとされた焼夷弾の密度が、展示室のゆかに赤いシールで示され  
ています。あなたが10歩、ふつうに歩くあいだに、何個の焼夷弾にあたってしま  
うか、数えてみましょう。